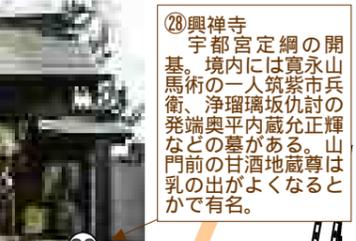




旧篠原家住宅
 江戸時代から続く豪商。明治28年に建てられた母屋と石蔵。黒漆喰や大谷石を用いた外壁、店先の格子などがすばらしい。



旧篠原家住宅
 江戸時代から続く豪商。明治28年に建てられた母屋と石蔵。黒漆喰や大谷石を用いた外壁、店先の格子などがすばらしい。



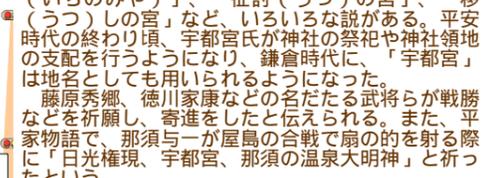
おしどり塚
 「土人の説に、むかし阿曾沼にて鷺鷥の雄鳥を射たる狩人あり。その雌の雄をしたふさまのくるしげなるを見て発心し、供養のため此所に塚を築き、其身は仏門に入りしと云。」(日光道中略記)鎌倉時代に獵師が雄のおしどりを撃ち、首を切り落として持ち帰りました。翌日さらに雌を射止めたところ羽で雄の頭を抱えていました。そこでここに塚を建てました。



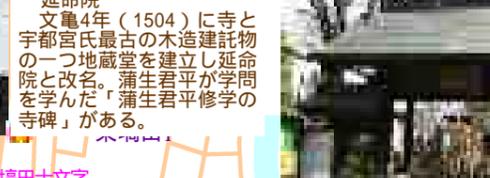
八幡神社
 報恩寺 江戸時代初期と思われる美しい山門がある。奥平家昌の正室による寛永16年(1639)開山といわれるが、鎌倉時代がそれ以前と見られる大五輪塔があることから、古くは別の寺があったといわれる。鉄製板塔婆は現存する日本最古の鉄製の塔婆といわれている。戊辰戦争で戦死した官軍の薩摩藩や長州・大垣諸藩の「戦死烈士之墓」がある。



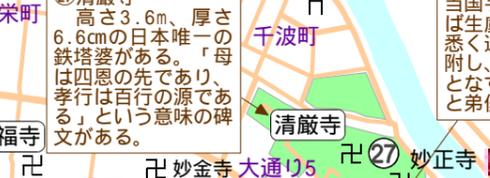
二荒山神社
 ②二荒山神社 崇神天皇の第一皇子で毛野野の開祖である豊城入彦命(とよきいりひこ)を主祭神とする。古くは宇都宮大明神とも呼ばれたが、その語源は、「ノ宮(いちのみや)」、「征討(うつ)の宮」、「移(うつ)の宮」など、いろいろの説がある。平安時代の終わり頃、宇都宮氏が神社の祭祀や神主領地の支配を行うようになり、鎌倉時代に、「宇都宮」は地名としても用いられるようになった。藤原秀郷、徳川家康などの名だたる武将らが戦勝などを祈願し、寄進をしたと伝えられる。また、平家物語で、那須と一が屋島の合戦で扇の的を射る際に「日光権現、宇都宮、那須の温泉大明神」と祈ったという。現在の社殿は戊辰戦争による焼失後の再建だが、鎌倉時代の鉄製狛犬・南北朝時代の三十八間星兜(ともに国選重要美術品)や、徳川家康の寄進による本殿高欄擬宝珠(宇都宮市指定有形文化財)などが伝えられている。



二荒山神社
 ②二荒山神社 崇神天皇の第一皇子で毛野野の開祖である豊城入彦命(とよきいりひこ)を主祭神とする。古くは宇都宮大明神とも呼ばれたが、その語源は、「ノ宮(いちのみや)」、「征討(うつ)の宮」、「移(うつ)の宮」など、いろいろの説がある。平安時代の終わり頃、宇都宮氏が神社の祭祀や神主領地の支配を行うようになり、鎌倉時代に、「宇都宮」は地名としても用いられるようになった。藤原秀郷、徳川家康などの名だたる武将らが戦勝などを祈願し、寄進をしたと伝えられる。また、平家物語で、那須と一が屋島の合戦で扇の的を射る際に「日光権現、宇都宮、那須の温泉大明神」と祈ったという。現在の社殿は戊辰戦争による焼失後の再建だが、鎌倉時代の鉄製狛犬・南北朝時代の三十八間星兜(ともに国選重要美術品)や、徳川家康の寄進による本殿高欄擬宝珠(宇都宮市指定有形文化財)などが伝えられている。



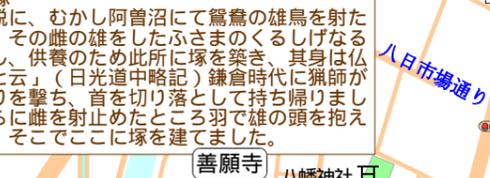
二荒山神社
 ②二荒山神社 崇神天皇の第一皇子で毛野野の開祖である豊城入彦命(とよきいりひこ)を主祭神とする。古くは宇都宮大明神とも呼ばれたが、その語源は、「ノ宮(いちのみや)」、「征討(うつ)の宮」、「移(うつ)の宮」など、いろいろの説がある。平安時代の終わり頃、宇都宮氏が神社の祭祀や神主領地の支配を行うようになり、鎌倉時代に、「宇都宮」は地名としても用いられるようになった。藤原秀郷、徳川家康などの名だたる武将らが戦勝などを祈願し、寄進をしたと伝えられる。また、平家物語で、那須と一が屋島の合戦で扇の的を射る際に「日光権現、宇都宮、那須の温泉大明神」と祈ったという。現在の社殿は戊辰戦争による焼失後の再建だが、鎌倉時代の鉄製狛犬・南北朝時代の三十八間星兜(ともに国選重要美術品)や、徳川家康の寄進による本殿高欄擬宝珠(宇都宮市指定有形文化財)などが伝えられている。



二荒山神社
 ②二荒山神社 崇神天皇の第一皇子で毛野野の開祖である豊城入彦命(とよきいりひこ)を主祭神とする。古くは宇都宮大明神とも呼ばれたが、その語源は、「ノ宮(いちのみや)」、「征討(うつ)の宮」、「移(うつ)の宮」など、いろいろの説がある。平安時代の終わり頃、宇都宮氏が神社の祭祀や神主領地の支配を行うようになり、鎌倉時代に、「宇都宮」は地名としても用いられるようになった。藤原秀郷、徳川家康などの名だたる武将らが戦勝などを祈願し、寄進をしたと伝えられる。また、平家物語で、那須と一が屋島の合戦で扇の的を射る際に「日光権現、宇都宮、那須の温泉大明神」と祈ったという。現在の社殿は戊辰戦争による焼失後の再建だが、鎌倉時代の鉄製狛犬・南北朝時代の三十八間星兜(ともに国選重要美術品)や、徳川家康の寄進による本殿高欄擬宝珠(宇都宮市指定有形文化財)などが伝えられている。



二荒山神社
 ②二荒山神社 崇神天皇の第一皇子で毛野野の開祖である豊城入彦命(とよきいりひこ)を主祭神とする。古くは宇都宮大明神とも呼ばれたが、その語源は、「ノ宮(いちのみや)」、「征討(うつ)の宮」、「移(うつ)の宮」など、いろいろの説がある。平安時代の終わり頃、宇都宮氏が神社の祭祀や神主領地の支配を行うようになり、鎌倉時代に、「宇都宮」は地名としても用いられるようになった。藤原秀郷、徳川家康などの名だたる武将らが戦勝などを祈願し、寄進をしたと伝えられる。また、平家物語で、那須と一が屋島の合戦で扇の的を射る際に「日光権現、宇都宮、那須の温泉大明神」と祈ったという。現在の社殿は戊辰戦争による焼失後の再建だが、鎌倉時代の鉄製狛犬・南北朝時代の三十八間星兜(ともに国選重要美術品)や、徳川家康の寄進による本殿高欄擬宝珠(宇都宮市指定有形文化財)などが伝えられている。



二荒山神社
 ②二荒山神社 崇神天皇の第一皇子で毛野野の開祖である豊城入彦命(とよきいりひこ)を主祭神とする。古くは宇都宮大明神とも呼ばれたが、その語源は、「ノ宮(いちのみや)」、「征討(うつ)の宮」、「移(うつ)の宮」など、いろいろの説がある。平安時代の終わり頃、宇都宮氏が神社の祭祀や神主領地の支配を行うようになり、鎌倉時代に、「宇都宮」は地名としても用いられるようになった。藤原秀郷、徳川家康などの名だたる武将らが戦勝などを祈願し、寄進をしたと伝えられる。また、平家物語で、那須と一が屋島の合戦で扇の的を射る際に「日光権現、宇都宮、那須の温泉大明神」と祈ったという。現在の社殿は戊辰戦争による焼失後の再建だが、鎌倉時代の鉄製狛犬・南北朝時代の三十八間星兜(ともに国選重要美術品)や、徳川家康の寄進による本殿高欄擬宝珠(宇都宮市指定有形文化財)などが伝えられている。



二荒山神社
 ②二荒山神社 崇神天皇の第一皇子で毛野野の開祖である豊城入彦命(とよきいりひこ)を主祭神とする。古くは宇都宮大明神とも呼ばれたが、その語源は、「ノ宮(いちのみや)」、「征討(うつ)の宮」、「移(うつ)の宮」など、いろいろの説がある。平安時代の終わり頃、宇都宮氏が神社の祭祀や神主領地の支配を行うようになり、鎌倉時代に、「宇都宮」は地名としても用いられるようになった。藤原秀郷、徳川家康などの名だたる武将らが戦勝などを祈願し、寄進をしたと伝えられる。また、平家物語で、那須と一が屋島の合戦で扇の的を射る際に「日光権現、宇都宮、那須の温泉大明神」と祈ったという。現在の社殿は戊辰戦争による焼失後の再建だが、鎌倉時代の鉄製狛犬・南北朝時代の三十八間星兜(ともに国選重要美術品)や、徳川家康の寄進による本殿高欄擬宝珠(宇都宮市指定有形文化財)などが伝えられている。

戊辰戦争 宇都宮戦死者の墓
 【新政府軍】慈光寺、大雲寺、一向寺、報恩寺、光琳寺、観専寺、安養寺、台陽寺、桂林寺、清蔵寺、高德寺、林松寺、天勢寺、光明寺、能延寺、江曾島町、石井町、東利部町、山本寺、駒生町、築瀬川沿い、雷神社、幕田堂ノ前、幕田町会ノ畑
 【幕府軍】常念寺、六道口、幕田町、光琳寺

貴目改所
 街道往來の荷物の重量を検査するため、問屋場に設置された。日光道中では寛保3年(1743)千住宿と宇都宮宿に置かれた。問屋2人、年寄2人、貴目方2人、同下役4人で宇都宮藩から役人1人が派遣されていた。文政5年(1822)には真岡代官所から役人1人が派遣されている。

清住町の町並み
 清澄通りの町並み 伝馬町の交差点から1kmほどの間は道の拡幅が行われておらず、道幅4間(約3.7m)で、明治から昭和初期までの大谷石でできた伝統的な建築物が残り、宿場の面影を感じさせる。道の両側には質屋、穀物屋、紺屋、竹細工商などが並んでいた。

27 宇都宮一里塚
 日本橋から27里の一里塚。「日光道中分間延絵図」には本郷町と新田町の間に杉が植えられ、木戸があった。また新田町は北の入口だった。今は何の痕跡もない。

奥州街道の追分
 「此辺より伝馬町、池上町のあたりは、屋壁ともに石にて作れる土蔵多し。又人家の屋上に多く石を置り。此地しばしば風損ある故なり」「日光街道・奥州街道の分かれめなれ。両道の荷物貴目改所及び本陣、伝馬会所などありて、賑はへる町なり」(日光道中略記)

光琳寺
 慶長10年(1605)に現在の地に移された寺です。境内には貞享5年(1688)に鑄造された鐘がある。明治元年(1868)の戊辰戦争で諸堂が焼失。官軍「官軍因州藩士之墓」と旧幕府軍の墓「戊辰の役幕府軍幕名藩士之墓」が向かい合っている。

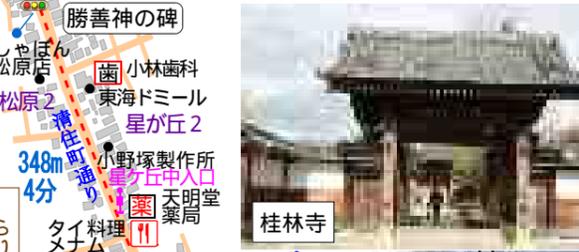
安養寺
 親鸞が大蛇を濟度したゆかりの池。その折天から花が降ったので名付けられたのが、壬生道飯塚の北、思川沿いの、花見ヶ岡で、紫雲山蓮華寺という寺がある。

観専寺
 「慶安3年(1650)まで栗野鹿崎に在しが十六世願能のとき、城主奥平氏に乞て鹿沼道に移れりと云」(日光道中略記)

六道の辻と戊申の墓
 六道の辻 六道の辻一帯は、戊辰戦争で宇都宮城を奪還しようとした新政府軍と、迎え撃つ旧幕府軍が激戦を繰り広げたところです。ここに会津で戦死した長岡藩士などの戊辰戦士墓がある。飯寺で捕らえられた山本帯刀と長岡藩兵は、明治に改元された9月8日に、長岡の方向に別れを告げ雨々異郷の地に散っていった。六道の辻には捕らえられた長岡藩兵と、捕らえた宇都宮藩兵との友好の証となるような墓標が残されている。

旧茂破町
 この付近は日光街道を開くまでは竹藪や雑草の生い茂る原野であった。「茂みを破って、まちづくりをした。酒屋、油屋、質屋、紺屋、湯屋などが並んでいた。

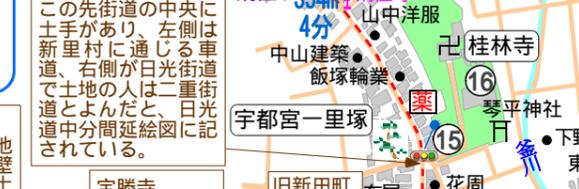
六道の辻
 六道の辻一帯は、戊辰戦争で宇都宮城を奪還しようとした新政府軍と、迎え撃つ旧幕府軍が激戦を繰り広げたところです。ここに会津で戦死した長岡藩士などの戊辰戦士墓がある。飯寺で捕らえられた山本帯刀と長岡藩兵は、明治に改元された9月8日に、長岡の方向に別れを告げ雨々異郷の地に散っていった。六道の辻には捕らえられた長岡藩兵と、捕らえた宇都宮藩兵との友好の証となるような墓標が残されている。



光琳寺
 慶長10年(1605)に現在の地に移された寺です。境内には貞享5年(1688)に鑄造された鐘がある。明治元年(1868)の戊辰戦争で諸堂が焼失。官軍「官軍因州藩士之墓」と旧幕府軍の墓「戊辰の役幕府軍幕名藩士之墓」が向かい合っている。



光琳寺
 慶長10年(1605)に現在の地に移された寺です。境内には貞享5年(1688)に鑄造された鐘がある。明治元年(1868)の戊辰戦争で諸堂が焼失。官軍「官軍因州藩士之墓」と旧幕府軍の墓「戊辰の役幕府軍幕名藩士之墓」が向かい合っている。



光琳寺
 慶長10年(1605)に現在の地に移された寺です。境内には貞享5年(1688)に鑄造された鐘がある。明治元年(1868)の戊辰戦争で諸堂が焼失。官軍「官軍因州藩士之墓」と旧幕府軍の墓「戊辰の役幕府軍幕名藩士之墓」が向かい合っている。



光琳寺
 慶長10年(1605)に現在の地に移された寺です。境内には貞享5年(1688)に鑄造された鐘がある。明治元年(1868)の戊辰戦争で諸堂が焼失。官軍「官軍因州藩士之墓」と旧幕府軍の墓「戊辰の役幕府軍幕名藩士之墓」が向かい合っている。



光琳寺
 慶長10年(1605)に現在の地に移された寺です。境内には貞享5年(1688)に鑄造された鐘がある。明治元年(1868)の戊辰戦争で諸堂が焼失。官軍「官軍因州藩士之墓」と旧幕府軍の墓「戊辰の役幕府軍幕名藩士之墓」が向かい合っている。



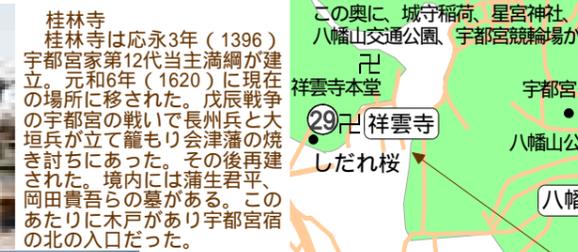
光琳寺
 慶長10年(1605)に現在の地に移された寺です。境内には貞享5年(1688)に鑄造された鐘がある。明治元年(1868)の戊辰戦争で諸堂が焼失。官軍「官軍因州藩士之墓」と旧幕府軍の墓「戊辰の役幕府軍幕名藩士之墓」が向かい合っている。



光琳寺
 慶長10年(1605)に現在の地に移された寺です。境内には貞享5年(1688)に鑄造された鐘がある。明治元年(1868)の戊辰戦争で諸堂が焼失。官軍「官軍因州藩士之墓」と旧幕府軍の墓「戊辰の役幕府軍幕名藩士之墓」が向かい合っている。



光琳寺
 慶長10年(1605)に現在の地に移された寺です。境内には貞享5年(1688)に鑄造された鐘がある。明治元年(1868)の戊辰戦争で諸堂が焼失。官軍「官軍因州藩士之墓」と旧幕府軍の墓「戊辰の役幕府軍幕名藩士之墓」が向かい合っている。



光琳寺
 慶長10年(1605)に現在の地に移された寺です。境内には貞享5年(1688)に鑄造された鐘がある。明治元年(1868)の戊辰戦争で諸堂が焼失。官軍「官軍因州藩士之墓」と旧幕府軍の墓「戊辰の役幕府軍幕名藩士之墓」が向かい合っている。



光琳寺
 慶長10年(1605)に現在の地に移された寺です。境内には貞享5年(1688)に鑄造された鐘がある。明治元年(1868)の戊辰戦争で諸堂が焼失。官軍「官軍因州藩士之墓」と旧幕府軍の墓「戊辰の役幕府軍幕名藩士之墓」が向かい合っている。



光琳寺
 慶長10年(1605)に現在の地に移された寺です。境内には貞享5年(1688)に鑄造された鐘がある。明治元年(1868)の戊辰戦争で諸堂が焼失。官軍「官軍因州藩士之墓」と旧幕府軍の墓「戊辰の役幕府軍幕名藩士之墓」が向かい合っている。



光琳寺
 慶長10年(1605)に現在の地に移された寺です。境内には貞享5年(1688)に鑄造された鐘がある。明治元年(1868)の戊辰戦争で諸堂が焼失。官軍「官軍因州藩士之墓」と旧幕府軍の墓「戊辰の役幕府軍幕名藩士之墓」が向かい合っている。



光琳寺
 慶長10年(1605)に現在の地に移された寺です。境内には貞享5年(1688)に鑄造された鐘がある。明治元年(1868)の戊辰戦争で諸堂が焼失。官軍「官軍因州藩士之墓」と旧幕府軍の墓「戊辰の役幕府軍幕名藩士之墓」が向かい合っている。



光琳寺
 慶長10年(1605)に現在の地に移された寺です。境内には貞享5年(1688)に鑄造された鐘がある。明治元年(1868)の戊辰戦争で諸堂が焼失。官軍「官軍因州藩士之墓」と旧幕府軍の墓「戊辰の役幕府軍幕名藩士之墓」が向かい合っている。



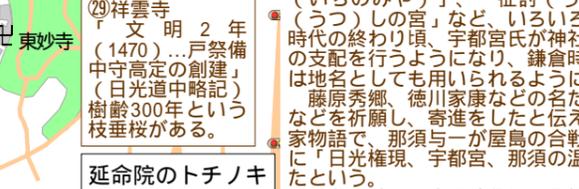
光琳寺
 慶長10年(1605)に現在の地に移された寺です。境内には貞享5年(1688)に鑄造された鐘がある。明治元年(1868)の戊辰戦争で諸堂が焼失。官軍「官軍因州藩士之墓」と旧幕府軍の墓「戊辰の役幕府軍幕名藩士之墓」が向かい合っている。



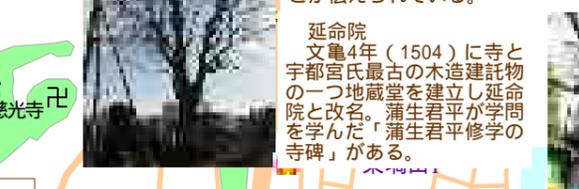
光琳寺
 慶長10年(1605)に現在の地に移された寺です。境内には貞享5年(1688)に鑄造された鐘がある。明治元年(1868)の戊辰戦争で諸堂が焼失。官軍「官軍因州藩士之墓」と旧幕府軍の墓「戊辰の役幕府軍幕名藩士之墓」が向かい合っている。



光琳寺
 慶長10年(1605)に現在の地に移された寺です。境内には貞享5年(1688)に鑄造された鐘がある。明治元年(1868)の戊辰戦争で諸堂が焼失。官軍「官軍因州藩士之墓」と旧幕府軍の墓「戊辰の役幕府軍幕名藩士之墓」が向かい合っている。



光琳寺
 慶長10年(1605)に現在の地に移された寺です。境内には貞享5年(1688)に鑄造された鐘がある。明治元年(1868)の戊辰戦争で諸堂が焼失。官軍「官軍因州藩士之墓」と旧幕府軍の墓「戊辰の役幕府軍幕名藩士之墓」が向かい合っている。



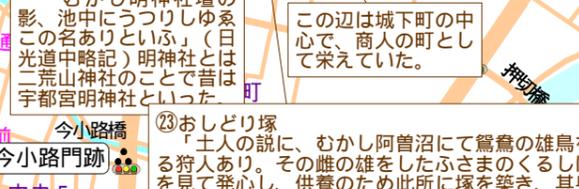
光琳寺
 慶長10年(1605)に現在の地に移された寺です。境内には貞享5年(1688)に鑄造された鐘がある。明治元年(1868)の戊辰戦争で諸堂が焼失。官軍「官軍因州藩士之墓」と旧幕府軍の墓「戊辰の役幕府軍幕名藩士之墓」が向かい合っている。



光琳寺
 慶長10年(1605)に現在の地に移された寺です。境内には貞享5年(1688)に鑄造された鐘がある。明治元年(1868)の戊辰戦争で諸堂が焼失。官軍「官軍因州藩士之墓」と旧幕府軍の墓「戊辰の役幕府軍幕名藩士之墓」が向かい合っている。



光琳寺
 慶長10年(1605)に現在の地に移された寺です。境内には貞享5年(1688)に鑄造された鐘がある。明治元年(1868)の戊辰戦争で諸堂が焼失。官軍「官軍因州藩士之墓」と旧幕府軍の墓「戊辰の役幕府軍幕名藩士之墓」が向かい合っている。



光琳寺
 慶長10年(1605)に現在の地に移された寺です。境内には貞享5年(1688)に鑄造された鐘がある。明治元年(1868)の戊辰戦争で諸堂が焼失。官軍「官軍因州藩士之墓」と旧幕府軍の墓「戊辰の役幕府軍幕名藩士之墓」が向かい合っている。



光琳寺
 慶長10年(1605)に現在の地に移された寺です。境内には貞享5年(1688)に鑄造された鐘がある。明治元年(1868)の戊辰戦争で諸堂が焼失。官軍「官軍因州藩士之墓」と旧幕府軍の墓「戊辰の役幕府軍幕名藩士之墓」が向かい合っている。



光琳寺
 慶長10年(1605)に現在の地に移された寺です。境内には貞享5年(1688)に鑄造された鐘がある。明治元年(1868)の戊辰戦争で諸堂が焼失。官軍「官軍因州藩士之墓」と旧幕府軍の墓「戊辰の役幕府軍幕名藩士之墓」が向かい合っている。



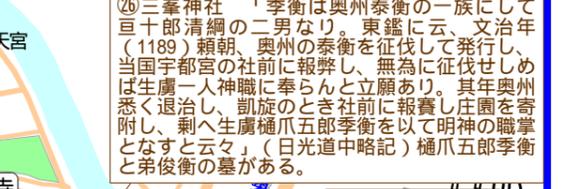
光琳寺
 慶長10年(1605)に現在の地に移された寺です。境内には貞享5年(1688)に鑄造された鐘がある。明治元年(1868)の戊辰戦争で諸堂が焼失。官軍「官軍因州藩士之墓」と旧幕府軍の墓「戊辰の役幕府軍幕名藩士之墓」が向かい合っている。



光琳寺
 慶長10年(1605)に現在の地に移された寺です。境内には貞享5年(1688)に鑄造された鐘がある。明治元年(1868)の戊辰戦争で諸堂が焼失。官軍「官軍因州藩士之墓」と旧幕府軍の墓「戊辰の役幕府軍幕名藩士之墓」が向かい合っている。



光琳寺
 慶長10年(1605)に現在の地に移された寺です。境内には貞享5年(1688)に鑄造された鐘がある。明治元年(1868)の戊辰戦争で諸堂が焼失。官軍「官軍因州藩士之墓」と旧幕府軍の墓「戊辰の役幕府軍幕名藩士之墓」が向かい合っている。



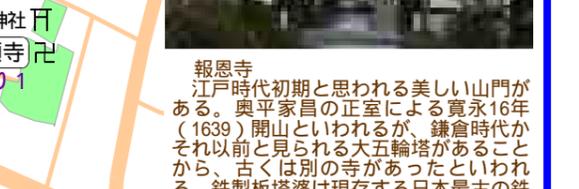
光琳寺
 慶長10年(1605)に現在の地に移された寺です。境内には貞享5年(1688)に鑄造された鐘がある。明治元年(1868)の戊辰戦争で諸堂が焼失。官軍「官軍因州藩士之墓」と旧幕府軍の墓「戊辰の役幕府軍幕名藩士之墓」が向かい合っている。



光琳寺
 慶長10年(1605)に現在の地に移された寺です。境内には貞享5年(1688)に鑄造された鐘がある。明治元年(1868)の戊辰戦争で諸堂が焼失。官軍「官軍因州藩士之墓」と旧幕府軍の墓「戊辰の役幕府軍幕名藩士之墓」が向かい合っている。



光琳寺
 慶長10年(1605)に現在の地に移された寺です。境内には貞享5年(1688)に鑄造された鐘がある。明治元年(1868)の戊辰戦争で諸堂が焼失。官軍「官軍因州藩士之墓」と旧幕府軍の墓「戊辰の役幕府軍幕名藩士之墓」が向かい合っている。



光琳寺
 慶長10年(1605)に現在の地に移された寺です。境内には貞享5年(1688)に鑄造された鐘がある。明治元年(1868)の戊辰戦争で諸堂が焼失。官軍「官軍因州藩士之墓」と旧幕府軍の墓「戊辰の役幕府軍幕名藩士之墓」が向かい合っている。



光琳寺
 慶長10年(1605)に現在の地に移された寺です。境内には貞享5年(1688)に鑄造された鐘がある。明治元年(1868)の戊辰戦争で諸堂が焼失。官軍「官軍因州藩士之墓」と旧幕府軍の墓「戊辰の役幕府軍幕名藩士之墓」が向かい合っている。